

事業所名

キッズハウスよろこび

支援プログラム

作成日

2024年

11月

1日

法人（事業所）理念		私たちは、高齢者や障がい者を含む全ての人の尊厳と人間性を尊重し、人々が心豊かで生きがいを持ち、共に生き支え合う地域社会の実現を目指す。						
支援方針		子どもたちが小集団の中で一緒に過ごしなが、一人一人の発達段階や特性に合わせて個別支援計画を作成します。療育や活動を通して、お友達との関わりの中で気持ちを伝える力や譲る心を養い、遊ぶ事を通して豊かな感覚を学び、体験をすることで豊かな感性を育み、役割を持つことで自立自尊心を育て、将来を見通した支援に繋がっていきます。						
営業時間		9時	0分から	18時	0分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	手洗い、検温、着替え、制服の片付け、ロッカーへの整理整頓、血洗い、洗濯機（洗う、干す、たたむ）、入浴支援（自立した生活に向けて）、掃除用具の使い方の習得、場に応じた掃除の仕方の指導、朝の会時に健康確認を行う、生活リズムを整えるための利用促進、調理器具の使用法の獲得、危険認識の促し、お買い物ごっこ等						
	運動・感覚	箸の持ち方、ボタン、紐結び、鉛筆の持ち方、姿勢、サーキット、ダンス、プール、体育館（集団活動、選択活動）、卓球バレー（集団スポーツでの気持ちの共有、準備としての定期的な練習、諸大会への団体参加）、スポーツ体験、外活動（虫、自然、公園で地域の子との交流、畑、山羊、交通ルール、球技）等						
	認知・行動	SSTを取り入れた小集団レク、ケンカ、勝ち負け、気持ちの折り合いのつけ方、強度行動障害児に対する冰山モデルを活用した手順書による統一した支援、45分間の学校の授業時間の感覚維持、読書（字を読むことへの抵抗感などの確認）、山羊とのふれあい、今日一日の予定の確認、時計の学習、数の概念の習得、工作活動、ミュージックケア、子どもたちが主体となって行事を企画運営を行う等						
	言語 コミュニケーション	お友達とのやり取りを通して、ケンカ、イヤなことを言った言われた経験を経て、職員と一緒に次にどうすべきか考える時間を作っていく。小集団でのSST、慣れるまではヘルプが出しやすい環境調整、他児に発表する力を養う、聞く力を養う、聴覚障害がある児童に対する手話以外でのコミュニケーションスキルの習得、絵カードを用いたコミュニケーションツールの活用等						
	人間関係 社会性	言葉での伝え方（おやつください）、食事のマナー、挨拶（いただきます、ごちそうさま）、公園で地域の子との交流、図書館外出（公共マナー、他児を思った本選び、季節に合わせた本選び）、電車やバスなどの公共交通機関、外食（マナー、自己選択、食べる量の自己認知、支払練習、企画）、他事業所との交流会、避難・防災訓練、不審者対応訓練、お買い物支援等						
家族支援		連絡アプリを活用した、支援方法のICT化。必要に応じての適宜面談、相談受付、送迎時の引継ぎ、お仕事に応じて朝8時から延長利用等			移行支援		地域のイベントへの参加、放課後等デイサービスから地域へ移行するためのスモールステップをたてた地域移行支援体制の確立、学校や行政などとの関係機関連携、諸会議の参加等	
地域支援・地域連携		地域の行事への参加、地域の児童クラブへの行事招待、卓球バレーにおける諸大会への参加（準優勝経験あり）等			職員の質の向上		各機関での研修の参加・伝達研修、自立支援協議会への参画、毎月の職員会議時のプチ研修、虐待防止・身体拘束研修、資格取得制度等	
主な行事等		お誕生日会、お買い物ごっこ、ミュージックケア、サーキットトレーニング、小集団レク、お買い物支援、おやつ作り、季節の工作、体育館行事、遠足等						